

子育て期女性の

就労と家事の相互健康影響:

baseline data 4-有配偶者の疲労感

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)

名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学

第74回日本公衆衛生学会 (2015.11.04, 長崎)

1

目的:

最終目的は、**子育て期女性**を対象に、**就労と家事**の負担が与える健康影響の評価。

今回は、baseline data から**有配偶者**で、**就労**や**子育て**と**疲労感**との関連を示す。

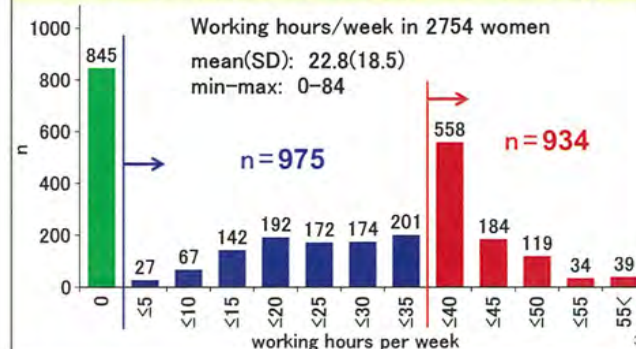
対象者:

同意を得た**健診受診女性 5,737名**のうち、**25~49歳の有配偶者**から、**重複者、休職者、妊娠中、学生**を除き、今回の調査項目に欠損のない

2,754名、平均年齢(sd) = 39.7(5.0) 歳

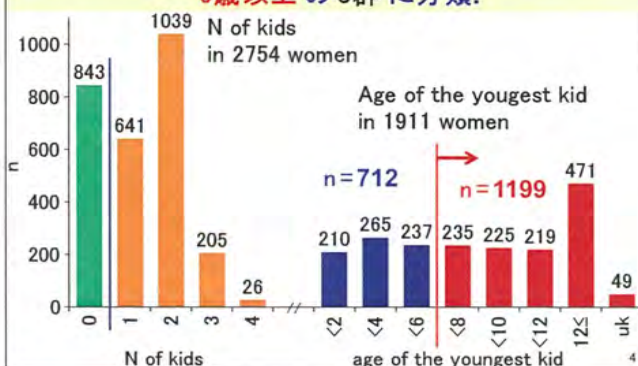
2

就労時間: 一週の就労日数と一日の就労時間から一週の就労時間を算出。⇒ **無職**、**週就労時間が35時間以下**、**35時間超**の3群に分類。



3

子育て: 子の数は0~4人、平均1.25人。
⇒ **子育てなし**、**末子年齢が6歳未満**、**6歳以上の3群**に分類。



4

就労時間と子育て、各3群のnと平均年齢

就労時間	子育て / 末子年齢			計
	なし	<6歳	6歳	
無職	136 38.6	355 37.2	354 42.2	845 39.5
≤35 h/w (22.9)*	200 39.0	214 37.1	561 42.8	975 40.7
35< h/w (43.3)*	507 37.2	143 37.0	284 42.6	934 38.8
計	843 37.9	712 37.1	1199 42.6	2754 39.7

(*)*: 平均就労時間

5

疲労感:

問診票で「**疲れやすい**」、「**疲れがとれない**」を選択した者をそれぞれの**疲労症状「あり**」とした。症状「あり」はそれぞれ**433名(15.7%)**と**286名(10.4%)**。

統計処理:

Logistic regression analysis で次頁の交絡因子を補正した「**疲れやすい**」、「**疲れがとれない**」の odds ratio (OR) 算出し、**就労**や**子育て**と**疲労感**の**関連性**を検討した。

6

交絡因子 6項目 (すべて群変数で logistic regression analysis に使用)

1. 年齢 5群: 5歳間隔
2. BMI 4群: 4分位、mean(sd) = 20.7(2.9) kg/m²
3. 治療中疾病 2群: なし/あり, n = 2057/697
4. 飲酒 3群: 週アルコール量 0/≤25/25< g/w, n = 1441/605/708
5. 喫煙 3群: 非/既/現, n = 2227/327/200
6. 運動 3群: 週運動時間 0/≤100/100< min/w, n = 1785/545/424

7

結果A: 就労時間、子育ての3群別 OR (95% CI) for 'fatigability' or 'prolonged fatigue'

	fatigability		prolonged fatigue	
	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) *	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) *
working hours/week				
none	132 (15.6)	1.00 (reference)	64 (7.6)	1.00 (reference)
≤35	143 (14.7)	0.93 (0.72, 1.22)	94 (9.6)	1.31 (0.93, 1.84)
35<	158 (16.9)	1.09 (0.83, 1.45)	128 (13.7)	1.83 (1.30, 2.59)
p for trend		0.329		<.001
age of the youngest kid				
no kids	143 (17.0)	1.00 (reference)	101 (12.0)	1.00 (reference)
<6 years	108 (15.2)	0.78 (0.57, 1.06)	70 (9.8)	1.01 (0.70, 1.44)
6≤ years	182 (15.2)	0.84 (0.64, 1.11)	115 (9.6)	0.83 (0.60, 1.16)
p for trend		0.175		0.250

*: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

8

結果B: 就労時間×子育ての9群別 OR (95% CI) for 'fatigability' or 'prolonged fatigue'

working hours/week	age of the youngest kid		
	no kids	<6 years	6 years≤
OR (95% CI) for 'fatigability' *			
none	1.00 (reference)	1.16 (0.64, 2.09)	1.18 (0.65, 2.14)
≤35	1.37 (0.72, 2.59)	0.82 (0.42, 1.60)	1.11 (0.63, 1.97)
35<	1.56 (0.89, 2.74)	1.22 (0.61, 2.44)	1.12 (0.60, 2.08)
p for interaction = 0.481			
OR (95% CI) for 'prolonged fatigue' *			
none	1.00 (reference)	1.20 (0.55, 2.65)	1.06 (0.48, 2.35)
≤35	1.27 (0.55, 2.94)	1.70 (0.75, 3.85)	1.35 (0.64, 4.92)
35<	2.38 (1.15, 4.92)	2.02 (0.86, 4.69)	1.61 (0.74, 3.52)
p for interaction = 0.696			

*: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

9

まとめ

- 1) 就労時間 3群 (無、≤35、35< h/w) と「**疲れがとれない**」には正の相関があった。一方、「**疲れやすい**」とは関連がなかった。
- 2) 子育て 3群と**疲労感**には関連がなかった。
- 3) 就労時間と子育ての**疲労感**に対する交互作用はなかったが、子育て「**なし**」で**就労時間**と**疲労感**の**関連**が強い傾向であった。

対象者を追跡しており、まず3年を目途に**子育て期女性の就労**や**家事**が生活習慣や健康指標に与える中期的影響を検討する。

10

この研究は、

名古屋市立大学 大学院医学研究科 倫理審査委員会の承認を得ている。

三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の**助成金**と**文科省・科学研究費** (23590805, 26460750) を用い、**国際セントラルクリニック** (名古屋市中村区、理事長: 内藤靖夫、事務長: 近藤康明) の協力で実施している。

COI: none

研究経過を下記 HP に順次開示している。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>

11